

研究テーマ

自分の考えを相手や目的に合わせて表現できる生徒の育成

1 単元名「伝承遊びを説明しよう」

教材名「具体例をもとに説明文を書く」

2 単元の目標

- ・情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。【知識及び技能】（2）イ
- ・文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等】B（1）イ
- ・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

3 指導事項に合致した言語活動とその特徴

指導事項に合致した言語活動として「具体例を一般化して説明文を書く活動」を位置付けた。具体例を一般化して説明文を書くには、具体例を一般化する方法や一般化の特徴を理解し、一般化した内容が適切なものか否かを検討する力が必要である。また、自身の主張と具体例を一般化した内容を結びつけるにはどのような構成で文章を書けばよいか考える力も必要である。これらの特徴から、この言語活動を位置付けた学習活動を展開することで「情報の信頼性の確かめ方を理解し使いつつ、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫する」という目標を達成できる。

4 単元について**（1）教材観**

文章を書くという行為は、国語科の活動だけでなく、他教科や領域においても頻繁に行われる活動であり、場面においては学校生活の中だけに留まるものではない。書く目的も学習したことをまとめるためであったり、他者とコミュニケーションを図るためであったり、自分の考えを書くことでまとめ直すためであったりと多様である。そのような多岐にわたる「書く」という活動の中でも今回は、「具体例をもとに説明文を書く」という活動を行う。これまでも1学年次には意見文を書く活動を、2学年次には新聞の投書を書く活動を行ってきており、自分の考えを他者に伝えるためには、意見を明確に記すことと自身の意見がどのような具体例に基づいて生じたものなのかという点については学習している。意見に説得力を持たせるには具体例が大切であるという点は学習しているが、具体例を一般化することについては学習していない。複数の具体例から共通項を見出し、それを自身の意見の根拠とすることで、より説得力の増す文章を書くことができる。具体例として示されている事柄が自身の主張したい内容と結びついているのかはもちろんのこと、具体例を一般化した内容の確かさや、具体例として挙げた事例をどの視点から一般化するかなどについても学習することで、文章を書くという能力だけでなく、文章を読み、その文章に用いられている具体例について吟味する能力も養えると考えられる。

（2）生徒の実態（男子16人、女子18人、計34人）

個人で考える活動では落ち着いて自分の考えを構築しようとし、グループ学習では課題解決に向かって意見交換や検討を行い、考えを深める姿が見られる。また、自分の考えや意見を書くことへの抵抗も強くなく、粘り強く記述しようとする姿の見られる生徒が多い。

以下、本学級生徒の文章記述に対する実態（回答人数 28 名 欠席者 6 名）をまとめた。

1. あなたが「説明的文章」に関して知っている用語を教えてください。 (自由記述、重複した内容や同趣旨の内容は統合)			
・身近な物事について、詳しく説明している文章 ・具体的 ・文章構成、起承転結 ・序論、本論、結論 ・演繹法、帰納法 ・問いと答え(筆者の主張)、双括型、頭括型、尾括型			
2. あなたが説明文(説明的文章)を書く際に気を付けていることはありますか。			
はい 22名		いいえ 6名	
2-2. 「はい」と答えた人に聞きます。何に気を付けていますか。 (自由記述、重複した内容や同趣旨の内容は統合)			
・自分の体験の話とか具体例を入れてわかりやすくする。 ・具体例を出したりして読み手に伝わりやすいようにすること ・自分の意見を明確にして述べ、まとめること。 ・文章構成で、序論、本論、結論で自分が言いたいことをどのように入れるのかや、具体例の示し方などに気を付けている。 ・根拠と意見をしっかり結びつけること ・文章の構成が間違っていないかどうか。自分の意見や理由は書けてるかどうか。 ・文字数や文章の構成、言葉遣いなど			
3. 具体例にはどのような働きがあるか知っていますか。			
はい 22名		いいえ 6名	
3-2. 具体例にどのような働きがありますか。 (自由記述、重複した内容や同趣旨の内容は統合)			
・筆者の意見に説得力をもたせたりわかりやすくしたりする。 ・筆者の意見をわかりやすく伝えるようにしたり、イメージを読者に持たせたりする働き ・読み手にイメージを持たせて、説明文の内容をわかりやすくする。 ・経験したことなど結論がより分かりやすくなるようにする ・実際に読者側が想像しやすくする働き			
4. あなたは説明的文章を読んで、書き手の主張や意見を探すことはできますか。			
できる 5名	どちらかと言えばできる 16名	どちらかと言えばできない 6名	できない 1名

アンケートの結果によると、質問 1 から説明的文章に関する学習用語について 18 名から何かしらの回答を得た。その多くが説明的文章に関する内容であったため、学習用語についてのある程度の理解があると考えられる。質問 2 において、説明的文章の記述時に留意点のある生徒は約 79% であり、留意する点として意見と具体例の結びつきや主張を伝えるための構成意識などが挙げられた。文章を吟味して読む上で、意見と具体例の結びつきや文章構成を意識することは重要であるため、留意できている生徒もそうでない生徒も、この点については継続して指導していきたい。質問 3 と 4 は説明的文章に欠かすことのできない内容である。両質問において肯定的な回答をした生徒は 8 割弱であるため、学習集団としては概ね同一の認識であると判断する。この学習集団において、本単元の学習活動を行うことで、既習事項の定着率の向上を図るとともに、文章を吟味し、批判的に文章を読む能力の育成を図りたいと考える。

(3) 指導観

本単元は単元全体を三段構成として考えた。一次では具体例を一般化するとはどういうことかについて身近な例を用いて確認することを主眼とし、生徒一人ひとりが具体例を一般化できるようになることを目標とする。二次では一次で確認した内容を踏まえ、一般化の際の注意点に主眼を置き、テーマの妥当性や一般化の際の偏りの有無や具体例から一般化した内容の確かさなどについて考える場面を設定する。提示されているテーマや情報、具体例ですらも、その確かさが保障されているわけではなく、受信者は吟味することが大切であることを学習させたい。三次では学習した内容を用いて実際に説明文を書く活動を行う。文章を書くにあたって誰に向けて書くのか(対象者)と、何のために書くのか(目的)を理解した上で活動に臨めるように指導する。今回の作文活動を通して、場面や状況に応じて文章の種類を選び、自分の考えを効果的に伝えるための文章展開や具体例の提示など、記述活動全般における能力が高まると考える。

また、本校の研究テーマである「自分の考えを相手や目的に合わせて表現できる生徒の育成」を目指した授業構成を意識する。具体的には、三次で行う説明文の作文活動である。前時までに学習した内容を用いつつ、伝承遊びについて「具体例を一般化した説明文を書く」こと(目的)と、読み手である他の学習者(相手)を意識した文章とすることを行わせたい。今回は書いて表現することを活動内容に設定したが、特に学習の振り返りについては毎時間行わせ、日々の学習で「何ができる・分かるようになったか」「学習のどこが分からないか」などを気づかせたい。その点が次の学習の際の課題となり、解決に向けて取り組むといったサイクルを構築できれば効果的な学習につながると考える。指導形態は個人でのまとめ学習の時間を確保しつつ、つまづきを解消するためにペア学習を取り入れる。また、個別に支援、声掛けを行っていく必要のある生徒もいるため、黒板に活動の流れを示し、今何に取り組めばよいのかが見えるような状態を作っていく。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ	文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。B(1)イ	これまでの学習内容を活かして、説明文を書く際の文章構造を理解するとともに、具体例を一般化することの特徴や注意点についてまとめ、学習課題に沿って説明文を書こうとしている。

6 指導と評価の計画(4時間扱い)

学習過程	時間	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法等
一次 (見いだす)	1	- 単元のゴールを知り、学習の進め方を知る。 - 複数の具体例から、その特徴を一般化する。	[主体的に学習に取り組む態度] <ワークシート・発言>
二次 (自分で取り組む) (広げ深める)	2 (本時) 3	- 一般化の際の注意点について考察する。 「伝承遊び」についての説明文を書く。	[知識・技能] <ワークシート・発言> [思考・判断・表現] <観察・成果物>

自己評価カードによる振り返り

三次 (まとめ あげる)	4	・「伝承遊び」についての説明文を読み、観点をもとに評価し合う。 ・単元の振り返りを行う。	〔思考・判断・表現〕＜観察・成果物＞
--------------------	---	---	--------------------

7 本時の指導 (2/4)

(1) 本時の目標

- ・一般化する際の注意点について考察することができる。〔知識及び技能〕(2)イ

(2) 展開

過程 時配	学習内容と学習活動, 発問(発)	指導・支援 (○) と評価 (◇)	備考
導入 (見いだす) 5 分	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習課題をつかむ。 一般化する際に気を付けなければならないことはないだろうか。	○前時の学習内容について振り返ることで、単元や本時の見通しを持たせられるようにする。	
展開 (自分で取り組む) 10 分	3 一般化する際に気をつけるべきことがないかどうか、個人でまとめ、ワークシートに書く。 発「一般化する時に気をつけるべきことはないか、前回のテーマや具体例から考えてみよう。」	○活動が進まない生徒には、「テーマと具体例がいつでも合致しているかどうか」を考えるよう促す。 ○活動が早く終わった生徒には、自分の見方とは反対の立場から考えてみるよう促す。	ワークシート
(広げ深める) 30 分	4 4人グループでワークシートの内容について話し合う。話し合った内容をワークシートに書きまとめる。 発「個人で考えた内容を、グループで発表し合い、更にまとめよう。」	○活動が進まないグループに、他のグループの進捗状況を確認させたり、グループで行き詰まっている点を聞き、助言したりする。 ○机間指導の際に、全体発表時の発表グループや箇所を決めておく。	
	5 全体場で、一般化する際の留意点について確認する。 発「一般化する際に気を付けなければならないことはあるだろうか。それは何か。」 ・具体例の代表性 (テーマに対する具体例に偏りはないか) ・テーマの妥当性 (具体例を挙げる際に適切な一般化ができるテーマなのか)	○生徒の発表内容に偏りが見られる場合は、一般化する際に留意すべき点は1つではなく、複数あることに気付けるよう助言する。 ◇一般化する際の注意点について考察している。〔知識・技能〕＜ワークシート・発言＞	

	・対象者の特定（誰を対象とした時の一般化なのか）		
まとめ （まとめあげる） 5分	6 本時の学習を振り返る。 ⑧「今日の学習で学んだことや疑問点，次回の学習に向けて活かすことなどを自己評価カードに記入しよう」 7 次時の見通しを持つ。	○本時の学習及び本時の目標に対して，学んだことや疑問点，次回の学習に向けて活かしたいことを振り返り，自己評価カードに書くよう指示する。	自己評価カード

（3）板書計画

④ 今日の学習の振り返りを行う。 ③ 全体で，一般化する際の留意点の有無と気をつけるべきことについて確認する。 ② 四人組でワークシートの内容について話し合い，考えを深める。 ① 一般化する際に気をつけるべきことがないかどうか，個人でまとめる。	・対象者の特定（誰を対象とした時の一般化なのか） ・テーマの妥当性（具体例を挙げる際に適切な一般化ができるテーマなのか） ・具体例の代表性（テーマに対する具体例に偏りはないか） ・何に気を付ける？ ↓ 有り ・ 無し	具体例をもとに説明文を書く ○一般化する際に気を付けなければならないことはないだろうか。
---	--	--

（4）評価

〔知識・技能〕の評価

本授業では，具体例を一般化する際の注意点について，個人や小グループでの思考を通じて考察させたいと考えた。前述の能力がついているかをワークシートへの記述とグループワーク時の発言内容を基に評価する。実際に評価する場面では，個人学習時のワークシートへの記入内容と授業展開部でのグループ活動の様子を通して見取ることとする。

A評価	個人やグループ活動で考えたり話し合ったりすることを通して，具体例を一般化する際の注意点について自ら複数挙げ，考察している。
B評価	個人やグループ活動で考えたり話し合ったりすることを通して，具体例を一般化する際の注意点について少なくとも1つ挙げ，考察している。
B評価に達しない生徒への手立て	「テーマと具体例がいつでも合致しているかどうか」や「その一般化は誰をイメージしているのか」などの補助発問を投げかける。